



2008NTTトライアスロンジャパンカップ第8戦小名浜港大会速報

高校生佐藤、スーパースプリント2連勝

男子は韓国のヘオ・ミンホ(許民昊)が優勝

7月20日(日)、福島県いわき市にある小名浜港周辺特設コースで、2008NTTトライアスロンジャパンカップ第8戦・2008JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第2戦小名浜港大会が開催された。

競技距離はオリンピック・ディスタンスの10分の1となる5.15km(スイム250m/バイク3.4km/ラン1.5km)を3ヒート。各ヒートの順位でポイントをつけ、3ヒートの合計ポイントで総合順位を競った。

午前9時55分に第1ヒートがスタートした女子は、スイムから佐藤優香(日本橋女学館高校)が積極的に前に出た。ぴたりとマークするのは蔵本葵(東京ヴェルディ)。やや遅れて菊池日出子(チームブレイブ)。

バイクでは、蔵本が佐藤をリードし続けたが、ランへの飛び出しで佐藤が再び前に出て、そのまま差を広げ、第1ヒートを制した。

第2ヒートも、第1ヒートとほぼ同じ展開となり、佐藤が危なげなく1位を確保した。



ボンツーンから飛び込むスイム/ヘオは常にトップでスイムを上った



バイクをリードする佐藤(右)と蔵本

佐藤 優香

日本橋女学館高校



勝った酒田大会と比べて、気持ちも身体も楽だった。7月に入って北京代表の井出樹里選手と練習を一緒にして、鍛えてもらってさまざまなことを学んだ。それが今日のレースにつながった。今日は、これまでの持てる力を全部出し切って勝つことができた。

蔵本 葵

東京ヴェルディ



いつも前に佐藤選手が見えていて、もうちょっとと思いながらも追いつけなかった。バイクは、タイトなコーナーの周りかたを練習してきたので、リードできた。ランの入りで、前につけなかったのがよくなかった。ランで離されても、追いつくだけの走力がほしい。力を出し切れたのは良かった。

JTU Official Sponsors & Official Partners



第3ヒートは、佐藤にスイムで西麻依子(湘南ベルマーレ)が肉薄し、バイクに入ると蔵本、佐藤と3名の集団を形成してスピードを上げた。ランでは佐藤がリードを保って3ヒートとも制し、完全総合優勝を果たした。2位は蔵本、3位は菊池となった。

午前11時30分スタートの男子は、今年のアジア選手権ジュニアの部で優勝したヘオ・ミンホ(許民昊)がスイムをトップでフィニッシュすると、バイクでも長谷川裕一(神奈川県連合)とともにトップでリードを保ち、ランに。ランでは、得意の脚を生かしたヘオが終始トップをキープして1ヒート目を制した。2位は宇都宮涼太(ウイングスTC)。

第2ヒートも、ヘオが逃げて長谷川が追う展開に。このヒートは、長谷川が頑張っランでヘオに肉薄したが、ヘオが逃げ切った。

第3ヒートは、スイムこそヘオ、長谷川の順で上がったが、バイクではこの2名に原田雄太郎(埼玉県連合)が加わり、3名の第1集団となった。そして、バイク中盤で長谷川が積極的に独り逃げを図ったが果たせず、ランへと入った。

ランでは、やはりヘオが先行。長谷川もよく追ったが、ヘオがそのまま3ヒート目も1位となって、完全総合優勝を飾った。2位は長谷川、3位は宇都宮となった。

レースの様子は「web JTU Magazine」フォトギャラリーでご覧になれます。



(上)ヘオと長谷川のマーチレースは続いた
(下)第1ヒートでは、2位に入った宇都宮

ヘオ・ミンホ(許 民昊)
韓国



もっと厳しいレースになると考えていたが、走ってみると予想よりも楽に勝つことができた。自分にとってはとてもよい距離で、短いがおもしろみのある好きなコースだった。練習で落車をして肩をケガしたが、レースは楽しめた。次は長良川に出たい。今後いい成績を残して、帰国したい。

長谷川 裕一
神奈川県連合



5月のアジア選手権が終わって故障したので、2週間しか練習していない。そのなかでは、そこそこパフォーマンスが出せた。狙っていたレースだったが、スイムでヘオ選手に先行されてしまった。100パーセント自分の力が出せれば、ジュニアのヘオ選手には負けない。

JTU Official Sponsors & Official Partners

